熱血先生インタビュー

＝（2）＝

ホンネの中学受験

毎週火曜日に掲載

親が勉強づけの生徒を生んでいる、と指摘する平岡校長

清風中学・高校（大阪市天王寺区）校長

平岡英信さん（63）

清風を進学、スポーツともに秀でた学校に育てた平岡校長が、いちばん大切にしてきたのは生徒の心をつかむことだという。しかし、そんな学校でも最近、びっくりするほどエゴイスティックな子どもがいる。その原因は親にあると、厳しく指摘する。

エゴ生徒・原因は親だ

——ことしは東大に5人が合格し、春の全国高校バレーにも男子チームが出場。順風満帆ですね。

「ホンマ、みんなようがんばってくれています。でも最近は、びっくりするほどエゴイスティックな子どももおります」

——どんな生徒ですか。

「勉強以外はいっさい関心がなくて、親に注意されると食ってかかる生徒です。〝どうしたらいいんでしょうか〟と親に相談を受けましてね。なんとかして直してやらな、アカンと思っています。親のために勉強してやることが、エライと思っているんですね。い

応募要領　前回の解答と当選者

今週の宿題　算数

ある町の１年間の人口増加の割合は40％である。また、この１年間で、男女比は25：26から10：11に変わったという。１年間の女子の人口増加の割合は（　　）％である。ただし、（　　）の数は四捨五入して整数で答えよ。

（平成５年度、灘中学入試）

奨学金１万円が当たる！

子供時代のナゾ　現代科学で解明だ

人ぼれぼれ

ブーメランの研究16年

大阪経済大学助教授　**西山豊さん（44）**

ブーメランは、なぜ戻ってくるのか？　こんな疑問にとりつかれ、十六年間も研究しているのが、西山センセイ。講義でも紙で作ったブーメランを大教室で投げ、学生たちを喜ばす。「教科書ばかりが、科学ではない。遊びながら科学する心を養うのがたいせつ」というのが持論だ。

（森　康成）

にしやま・ゆたか　昭和23年10月21日、滋賀県生まれ。京都大学理学部数学科を卒業後、日本IBMに入社。システムエンジニアとして情報処理関係の仕事に従事する。60年、大阪経済大経営学部の情報処理担当の講師として招へいされ、平成元年から助教授。著書に『卵はなぜ卵型か』『サイエンスの香り』など。ブーメランをはじめ、電子体温計の誤差についての研究でも有名。

学生たち大喜びで協力

研究室のドアを開けると、難しそうな数学専門書にまじって、色とりどりのブーメランが目に入ってきた。そばには懐かしい宇宙ゴマや、一世を風びしたあのルービックキューブも。

「おもちゃ箱みたいでしょ。ブーメランは、みんな手製ですよ。もう二百個は作ったかな。なんでもトコトンやらないと、気が済まないたちでして…」

専門は数理科学。どんな研究をする学問かも知らないが、それにしてもなぜブーメランなのか。

「数学専門誌にエッセーを連載していた十六年前、たまたまブーメランのことを取り上げたんです。そのとき、ブーメランがなぜ戻ってくるのか、という子供時代のナゾが、いまだに解けてなかったことに気づいたんです」

こうなると、夢中になる。さっそくブーメランを作って、なんども飛行実験を繰り返し、飛行軌跡の数式などにも取り組んだ。ゼミの学生たちもノコギリやヤスリを使ってブーメラン作りに励み、グラウンドなどで飛ばしまくった。

思いきり不真面目に勉強しよう

懸命で楽しい研さん

それでもなお不明

こうした〝学術研究〟で得たじょうずな飛ばし方は—。

「ブーメラン遊びをして、だれもが思うのは、『うまく戻ってこない』ということ。原因は、投げ方です。初めて手にした人は水平に投げてしまうんですが、タテ方向に投げるのが鉄則。そうすると、途中で水平になって舞い上がり弧を描いて戻ってきます。簡単に楽しむなら形も『く』の字型より三枚羽根タイプの方がいいですね」

だが、ブーメランが戻ってくる理由については、十六年間におよぶ懸命な研さんにもかかわらず、完全解明にはいたってはいない。

「ブーメランをタテ方向に投げると、翼の上下で揚力差が生じ、進行方向を変える力が発生するため、戻ってくるんです。ここまでは解明できた。が、飛んでまもなく、縦から水平に向きを変える『横転現象』については、いまだナゾ」

硬い話はやめて…

身近な疑問から数理導く

ブーメランは、オーストラリア先住民の知恵から生まれた狩猟道具。その原理は、現代の科学も解明しきれていないというわけだ。

西山さんが、これだけブーメランにこだわるのには理由がある。

「だいたい、いまの数学教育はダメ。知識ばかり先行しちゃって、教えられる側も全然、楽しくない。やっぱり体を使って覚え、疑問と好奇心を引き出してやらないと。これが科学の原動力ですよ」

ゼミのテーマも「生活の中の数理」。「扇風機の羽根がなぜ逆に回って見えるか」「卵はなぜ卵型か」など、身近な疑問の中から数理を導く。硬い話はやめ、思いっきり不真面目に科学しようというわけだ。

愛好家の集まりでもある日本ブーメラン協会にも参加。

「でも、関西の会員は私を含め十人足らず。それで一昨年から大学祭でブーメラン競技会もやり始めました。もっと、多くの人がブーメランに関心を持ってくれたら…」

ブーメランを手に、数学者の顔がキリリと引き締まった。

記者のひと言

数式を見ただけで、鳥肌が立つ数学アレルギーの私。高校時代に数学のテストで、4点（もちろん100点満点）を取ったのも記憶に新しい。

というわけで、取材にうかがう前は、はたして話が理解できるだろうかとビクビクしていたが、そんな心配は無用だった。こんなセンセイに教えてもらっていたら、人生も変わっていただろうに…。

トップに聞く成功の秘けつ

ご先祖さんに感謝！

骨身にしみた祖父の説教

大阪マルビル社長

吉本晴彦さん（69）

●7●

少年時代の吉本さん。左はどケチ精神を教えた彦太郎じいさん

父親を早くに失った吉本さんは、祖父・彦太郎さんからケチ道のイロハを教わることになる。その一歩が仏壇を拝んでからの説教だったという。

——どんな説教をされたんですか？

吉本　いちばんよういわれたんは、

「晴彦、お前、だれのおかげでメシ食わしてもろとんや」

ということでね。まだ4つか5つのときですから、わたしにはようわかりません。それで、「おじいちゃんのおかげや」というたら、

「それはちがう。おじいちゃんもお前も、いま拝んどるご先祖さんのおかげや。おじいちゃんはいずれ死ぬけど、そのあとも必ずいまみたいに朝晩拝め。それがおじいちゃんの命令や」

と、肌に染み込むようにいわれましたね。

彦太郎じいさんが、なぜお仏壇を拝めというたか—。

仏壇を拝むというのは、ご先祖に感謝をしろということですよね。感謝をすることがわかったら、自然ともったいないということがわかり、お金やモノを大切にする。大切にするからカネがたまる…。

〝ケチの三段論法〟幼児の頃から伝授

この『感謝』『もったいない』『大切にする』というのを、ケチ精神の三段論法といっとるのですがね。それがその後の「大日本どケチ教」の基本精神にもなるわけですが、とにかく「日本人はご先祖を大切にせな、あかんのや」というのが彦太郎じいさんの宗教哲学でしたねえ。

——今もその教えを守っているんですか？

吉本　もちろんですよ。朝晩は、ちゃんとわが家のお仏壇に手を合わせていますし、ヒマさえあれば墓参りして、お墓と話をしている。ま、ひとつの趣味ですかねえ（笑）。

——ケチの教えは、ほかにもありますか？

吉本　そりゃ「『あいつはどケチや』いわれてこそ一人前や」という人でしたから、説教などゴマンとありますよ。当時は吉本家累代の墓が京都にありまして、墓参りというと梅田から汽車に乗っていくわけです。そこでわたしが「たまには二等車に乗りたいわ」というと、

「そんなことでは、ケチ人間になれへん。二等に乗ったかて三等に乗ったかて、向こうへ着く時刻は一緒や。もったいないこというもんやおまへん」

こんなんばっかりですわ（笑）。

（つづく）

夕刊フジ
営業案内広告
「ミニ・スポット」の